教科
 家庭
 学年
 2年
 (令和7年度)

【教科の目標】

生活ついての理解を深め、家族や家庭、衣食住、消費や環境など、生活の自立に必要な基礎的な理解を図り、それらに関わる技術を身に付ける。実践的・体験的な活動を通して、課題を見つけて解決し、考察したことを自分なりに表現することで、生涯を見通して課題を解決する力を身につける。家族や地域の人々の関わりを考え、協働し、よりよい生活の実現に向けて生活を工夫する実践的な態度を身に付ける。

【使用教材・副教材、使用教室・指導形態】

- ◇技術・家庭 家庭分野 (開隆堂)、技術・家庭総合ノート 家庭分野 (明治図書)、プリント、ファイル、タブレット
- ◇教室、調理室 ◇一斉授業、グループ学習指導、個人活動

【評価の観点と資料】

観点	評価基準	評価資料
知識・技能	生活と技術について理解しているとともに、それらに関わ	ワーク・プリント・作品・定期
	る技能を身に付けている。	考査・課題など提出物
思考・判断・表現 生活や社会の中から問題を見出して課題を設定し、解決		ワーク・プリント・定期考査・
	を構想し、実践を評価・改善し、表現するなどして課題を解	課題など提出物
	決する力を身に付けている。	
主体的に学習に	よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、課	ワーク・プリント・実習レポー
取り組む態度	題の解決に主体的に取り組むことで、振り返り改善しなが	ト・課題など提出物・作品
	ら、生活を工夫、創造、実践しようとしている。	

【授業の進め方と学習のポイント】

- ○授業は、板書を写すだけではなく、説明をよく聞き、新しい知識を得て、自分の意見を書き足すことで知識・ 理解を深める。
- ○一斉授業やグループ学習では、発表や発言に進んで参加する。
- ○実験実習などの活動では、班員と協力して計画的に行う。
- ○実験実習などの活動では、教員の指示や被服室、調理室の使用方法に従い安全、衛生面に留意し作業する。
- ○提出物の期限を守る。忘れ物をしない。
- ○実習や授業のねらいを理解し、生活に活用させる。
- ○言葉を暗記するだけでなく、自分の家庭生活を振り返り生活と照らし合わせて思考・判断・表現する。

【家庭学習の進め方】

- ① 課題は丁寧に取り組む。その時の発見・気づきを大切にする。
- ② 授業で習った内容、自分で実践できることを家庭で実践し復習する。
- ③ 授業で学んだ内容が家庭生活や社会の中で、どのように使われ、私たちの生活を豊かにしているか、テレビ やインターネットなどで、情報収集をする。また、他者の意見、情報も生活に活用させる。
- ④ 社会や地域・家庭生活について関心をもち、気になったことを記入し、調べる習慣を身に付ける。

【学習の基盤となる資質・能力を身に付けた生徒の育成】

校内研究に関わる検証授業 マトリックス④情報活用能力×知識技能

- A 日常食の調理「調理実習」安全、衛生、環境に配慮した調理の流れと手順について調べ、実践する。 食生活にも関わる持続可能な消費行動「消費行動が社会や環境に与える影響」消費行動が社会や環境に与える影響について調べ、自分の生活を工夫するための情報を得る。
- B 持続可能な食生活「食生活に関する環境問題」食生活と食生活に関して、社会の現状を見直し課題を調べる。
- C 幼児の生活と家族「幼児の遊び」幼児の発達に合わせた安全な遊びについて調べ、理解する。

【年間指導計画(年間35時間)】

[年]	間指導計画(年間 35	時間)】	
週	単元名	主に学習すること	学習のねらい
1	B 衣食住の生活	1. 生鮮食品の選択と保存	○生鮮食品と加工食品の特徴を理解する。
2	【食生活】	2. 加工食品の選択	○生鮮食品と加工食品の表示内容、正しい保存方法を理
	さまざまな食品と		解する。
3	その選択	3. 食品の安全と情報	食品の安全を確保する仕組みの必要性について考える。
4			
5			
6	地域の食文化	地域の食文化【B】	食文化の成り立ちを理解し、自分の住んでいる地域の食
7			文化について理解する。
8	日常食の調理	1.実験調理の計画	○1日分の献立作成の方法を理解し、作成する。
9	学習基盤 A	2.実験調理実習	○いろいろな切り方の技能を身につける。
10		2	○実験調理レポートの作成を通して、よりよい献立を工
11			夫する。
12			
13			
14	B 衣食住の生活	 1.食生活の課題	 健康で豊かな食生活の実現に向けて課題を設定する。
15	【食生活】	2.食事の役割	生活の中で食事が果たす役割を考える。
16		3.健康によい食習慣	食生活を振り返り、健康によい食習慣について考える。
17	中学生に必要な栄	1.栄養素の種類とはたらき	○中学生の発達と必要な栄養素
18	養を満たす食事	1. 水及水の恒原ではたりで	○十十二の元建しむ気は水長ボ ○栄養素のはたらきと種類について理解する。
19	学習基盤B	 2.6つの基礎食品群と食品	○食品成分表、6つの基礎食品群、食品群別摂取量の目
20		群別摂取量のめやす	安について理解する。
21			スに ン
22	A 家族・家庭生活	1 毎日のアフトムの白八	○自分の幼児期を振り返る。
23		1.幼児のころと今の自分	○日力の幼光期を振り返る。 ○子どもが育つ環境としての家族の役割を考える。
24	幼児の生活と家族	2.幼児の体と心の発達	
25	学習基盤 B	3.発達にとってのおとなの	○幼児の発達と生活の特徴を理解する。
26		役割	○幼児期の遊びの種類と育つ力について考える。
26		4.幼児の遊び 「************************************	○昔と現代の子どもの遊びを比較し、遊びと環境の課題 た解決しよるとせる
27		5.遊びを支える環境	を解決しようとする。
28	4.10 1 6 2 2 2 2	1/4/11 0 2 2 2 2 2	工業ルが圧回してたようした。 密接 ヒュセン・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
29	幼児とのかかわり 	1.幼児とのふれあい	中学生が幼児とふれあうときの、留意点を考え、工夫す
30		2.子どもの成長と地域	3.
31	家庭生活と地域の	1.中学生と地域	高齢者など地域の人々と関わり、協働する方法について
32	かかわり	2.地域に暮らす高齢者	考え、工夫する。
33	持続可能な家庭生	1.子どもの健やかな成長	家庭生活の課題を発見し、地域や社会の一員として、多
34	活		様な人びとと暮らしていくために課題を解決したり、工
35	学習基盤C	2.持続可能な家庭生活	夫したりしようとする。